

# 大崎住民訴訟を支援する会ニューズ第14号(2022年1月)

事務局 電話番号：070-2010-3777 〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

事務局アドレス osaki.shien@gmail.com <https://www.facebook.com/osaki.shien>

## 第14回期日で内部被爆の危険性を主張

2021年12月6日開催された大崎住民訴訟で、原告側は「黒い雨訴訟」の判決を示し、内部被ばくの危険性を主張しました。同時に口頭弁論でのビデオ上映と西尾正道氏(国立病院機構北海道がんセンター名誉院長)の証人尋問を要求しました。

11月に行われた「玉造CCでの実証実験」については調査結果が間に合わず、次回口頭弁論期日での発表となります。

### 涌谷町汚染牧草すきこみ処理

涌谷町は11月30日の町議会で、22年度から26年度までの5年間、400Bq/kg以下の汚染牧草233トンを町有地ならびに私有地に、10アール当たり2トンすきこむ方針を発表。400Bq/kg～8000Bq/kgの牧草364トンは焼却が進められています。

### 栗原市でも来年度すきこみ開始

放射能から子どもたちを守る栗原ネットワークからの情報です。「2021年11月17日(水)の行政区長と市長との懇談会」での質問に対する市長の回答として「農家の軒先から30m以内にある400Bq/kg未満の汚染牧草100tについて、来年度国の事業としてすき込みたい。その他の400Bq/kg未満の汚染牧草1000tについては、再来年度すき込みたい。その後、400Bq/kgを越える汚染牧草1500tについては、堆肥化してすき込みたい。すき込む場所は市有地を考えているが、(市有地だけでさばけないので、)私有地も利用したい。」と答えています。涌谷町と同様の動きで、環境省の働きかけの結果と思われます。

宮城県大崎市の住民124人が8000トン以下の放射能汚染廃棄物を住民合意なしに焼却するのは違法だとし、大崎地域広域行政組合を相手に公金支出の差し止めを求めた訴訟の第14回口頭弁論が6日、仙台地方裁判所で開かれました。法廷で原告弁護団の米田国良弁護士は、被告側が内部被ばくの危険性について国際放射線防護委員会(ICRP)の基準上の主張しかせず、具体的な反論をしていないと指摘。7月に住民の内部被ばくを認めた「黒い雨」訴訟の判決を示し、被告に同判決への認識と焼却による内部被ばくの危険性への認識を問いただしました。報告集会で松浦健太郎弁護士は、「今後は内部被ばくの問題に論点が展開していきます。これまで目をつぶられてきた危険性をしっかりと訴えていきます」と語りました。原告団長の阿部忠悦さんは、放射性物質が煙突からもれていないか調べる排ガス測定のための募金に、海外からも協力があがり目標に届いたことを報告。「感激とともに、必ずこの裁判を勝とうと改めて誓っています」と話しました。

## 大崎住民訴訟

### 第15回口頭弁論期日

日時=2022年2月16日(水)10時~11時

仙台地方裁判所 101号法廷

報告集会=弁護士会館

## 丸森町の除去土壌埋立処分実証実験始まる

11月下旬より丸森町の汚染土壌仮置き場での環境省の埋立処分実証実験が始まったと、河北新報が報道しています。那須町や東海村で行った内容と同じで、汚染土壌に混在する草木類を分別し、土壌だけ元の場所に埋め戻すというもので、2738袋が対象。取り出した草木類は別に保管するとしているが、保管先は示されておらず、その処分がどうなるか心配です。

# 玉造CC周辺住民対象に尿検査を実施

## 被験者半数からセシウム検出

ちくりん舎(NPO 法人市民放射能監視センター)が2021年3月より7月までの期間玉造CC周辺に住む住民40名を対象に行った尿検査(セシウム測定)の結果速報が発表されました。それによると、20名からセシウムが検出され、1番高い数値は0.48 Bq/dayで、玉造CCの風下2km付近に住む住民でした。同地区では9名からセシウムが検出され、その平均値は0.2 Bq/dayでした。

## 玉造ccの風下2km付近が高い値

以上、尿検査の結果は、以前行ったリネン吸着法と同様、玉造CCの風下2km付近の住民に最も高い数値が検出され、平均値も一番高い地域と判明しました。風下2km付近は自治体がつくった玉造CCの煤塵降下シミュレーション図でも一番降下する場所と予測されており、放射能汚染廃棄物(稲わら・牧草)の焼却によって、焼却場から放出されたセシウムが住民の体内に取り込まれていることが、これで証明されました。

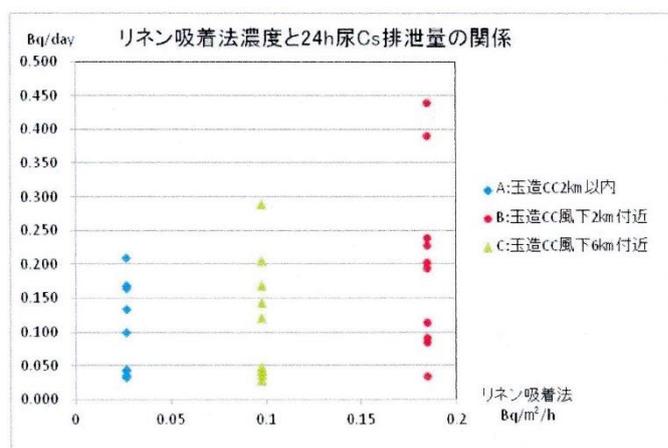


図2 各グループ住民の Cs24ex (コメ影響除外前) の分布

## コメからもセシウム検出

なお尿からセシウムが検出された被験者の常食米も同時に調べたところ、8軒の家のコメからセシウム137が検出されました。一番高い数値は1.8 Bq/kgです。焼却場から降下するセシウムがコメに入り込み、体内に取り込んだ人もいますと考えられます。排ガスの吸入による影響はもちろんのこと、コメ以外の食べ物や飲み水などの汚染も心配されることです。(文責=広幡)

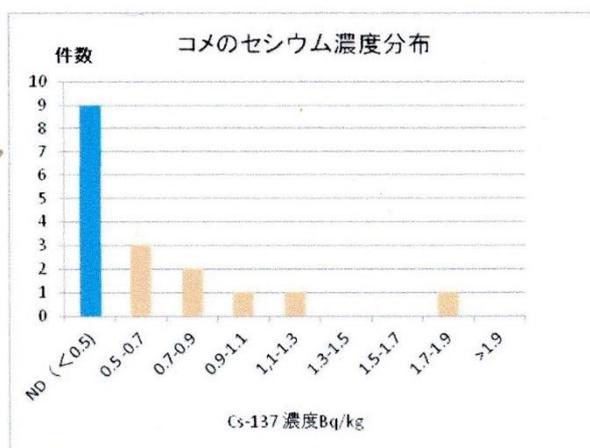


図3 尿検査で検出となった被験者の常食するコメの濃度分布